

環境と両立する経済社会

— SPEEDED セミナーより ④

鉱物資源の危機に対する。我が国にとってまさに我が国の意識が薄く、極言 国益上の資源危機と言えすれば国家戦略とそれに基

づく資源外交が欠けている。一方、資源開発に伴う凄まじい環境破壊によって、産業界においても、資源を単なる外部購入資材と位置付け、商社依存体質から脱却できないでいる。

しかし、世界の鉱業界では国際メジャーによる寡占は国際メジャーによる寡占

支配と業界再編が急速に行きつつある。また、中国は世界中でトップ外交による資源困い込みに狂奔し、資源争奪戦の様相を呈する中、市場価格は急騰してい

鉱物資源危機編

国連大学ゼロエミッションフォーラム理事 谷口 正次氏



国益と地球益の追求を

へドロなどの投棄による河川や海洋の汚染など、凄まじい環境破壊が起きています。そのため、先住民の生存権さえ奪われるなど、地域社会への影響が非常に大きく、あちこちで暴動も頻発している。

しかし、問題がローカルで、人々の目に触れること

がななく、認識されることも極めて少ない。また、二〇〇三年には、発展途上の六カ国だけで、世界の鉱物資源供給量の三割を超えたと予測されており、途上国における環境破壊がますます懸念されている。

世界中に鉱山がいくつあるかという点、私の試算で

私の提案は「スイカ縦割り理論」に基づく資源戦略と外交だ。海底を除くと地球上の資源は南北の地域に大抵何でもある。例えば「北米・南米」、「極東シベリア・中国・東南アジア・オーストラリア・オセアニア」、「スカンジナビア・ヨーロッパ・アフリカ」など

り立っていることを知らなければ、環境問題は語れない。3R運動やLCAにしても、この一番川上の部分の議論が抜けており問題がある。それでは、こうした鉱物資源を巡る国益と地球益上の危機のほかに、我が国はどうすればいいのか。

現在の工業社会、IT社会もこうした現状の上に成り立っていることを知らなければ、環境問題は語れない。3R運動やLCAにしても、この一番川上の部分の議論が抜けており問題がある。それでは、こうした鉱物資源を巡る国益と地球益上の危機のほかに、我が国はどうすればいいのか。

(終わり)